

第1号議案

令和5年度社会福祉法人白龍会事業報告

社会福祉法人白龍会として、35年の長きにわたり秋葉の苑の経営に携わって参りました。職員確保につきましては、昨今、少子高齢化及び春野町の人口減少により、職員募集しても希望者が殆どなく、他の近隣地域への募集呼びかけにも反応は極めて薄い状況でありました。

また、職員研修におきましては、福祉施設関係者の全国大会への参加やズームによる研修にも積極的に参加を促し、職員全体に報告しながら浸透を図り、業務に活かして参りました。施設は35年の時を経て、老朽化が進んでおり、耐用年数の関係から設備、備品の不具合が頻発し多くの修理費を費やしました。

コロナをはじめとする感染症対策につきましては、毎週会議の中で議題として協議し、手指消毒や、換気の実施、面会制限などの対策に努め、5年度におきましては、大過なく過ごすことができました。なお、地震や浸水などに備え、防災倉庫の建設を計画しましたが、建築資材や人件費の高騰により予算内での建築を断念し、次年度に安価で堅牢な既製品倉庫の導入を検討していきます。

最後に、サービス利用者の減少をはじめ、新規採用の困難性に直面したこの一年を深く反省し、様々な課題解決に向けて、利用者の幸せを第一に、職員一体となって取り組んで参ります。

(1) 理事会・評議員会の開催

法人本部及び施設の事業計画並びに予算、決算及び諸規程の改正等審議するため次の通り理事会・評議員会を開催した。

<理事会>

1 令和5年5月27日

- ・令和4年度事業報告
- ・令和4年度決算報告 監事監査報告
- ・理事・監事の候補者の選定
- ・評議員候補者の選定
- ・評議員選任・解任委員会の招集決議
- ・評議員会の開催
- ・前回理事会以降の経過報告

- 2 令和5年6月17日
 - ・理事長の選定
- 3 令和5年9月30日
 - ・ハラスメント防止規程
 - ・前回理事会以降の経過報告
 - ・令和5年度社会福祉施設等の指導監査の実施結果について
- 4 令和6年1月20日
 - ・令和5年度第1回補正予算
 - ・経理規程の変更
 - ・中間監査報告
 - ・前回理事会以降の経過報告
- 5 令和6年3月23日
 - ・令和5年度第2回補正予算
 - ・令和6年度事業計画
 - ・令和6年度当初予算
 - ・評議員会の開催について
 - ・前回理事会以降の経過報告

<評議員会>

令和5年6月17日

- ・社会福祉法人白龍会理事・監事の選任
- ・令和4年度計算書類（貸借対照表及び収支計算書）及び財産目録の承認
（監査報告）
（令和4年度事業報告）

（2）監事による監査の実施

1 令和5年5月18日

- ・本部施設の事業及び会計について監事による監査を実施し、事業並びに経理の適性を期する。

2 令和5年11月9日

- ・本部施設の事業及び会計について監事による中間監査を実施し、事業並びに経理の適性を期する。

（3）評議員選任・解任委員会の実施

1 令和5年6月3日

- ・評議員の選任

令和 5 年度 秋葉の苑事業報告

人が人を介護するという貴い仕事の中、相手の立場にたち、優しく、温かさをもって介護に努めて参りました。

介護 3 以上が入苑資格となってから、入苑者の退所が数を増し、目まぐるしい 1 年をおくりました。又、高齢人口（春野町に於いて）の減少に伴い、入苑希望者に四苦八苦致しました。現在も定員を満たさず日々を過しています。職員人員が、ぎりぎりと言う事で、短期入苑者は半分に減らしましたが、特養の人員が減ってきていることに鑑み、別の施策を講じなくてはならない時にきている現在です。

これに並行して、デイサービスも稼働率の低迷があり、一考が必要であります。

どのサービスも利用率の低下を招き、施設をあげて考察しなければならない時期であることを念頭に於いて仕事をしていかなくてはならないと肝に命じています。

皆様のご支援とご協力を切にお願いするところであります。

<事務管理>

外来者受付、電話応対など、外部と苑のなかつぎ役として、基本理念である明るい笑顔と挨拶、お客様の気持ちをくみ取る応対を常に考えて対応するようにした。本部・施設の予算決算を滞りなく行った。

主なものとして

- ・国保連への保険料月々請求

利用者への請求、領収手続きを怠り無く行った。

- ・職員の人事に関する事
- ・苑前の空き地借用の件
- ・職員からの調達・建物・器具の補修の対応
- ・多額のものとして、車椅子の購入、居室エアコンの更新、非常照明改修、厨房給湯器回転窯修理、食堂テーブル・アームチェア購入、職員入所者用ヘルメット購入などを行った。
- ・施設内の整理整頓、清潔に留意した。
- ・職員の健康管理指導に努めた。

<防災>

令和 5 年度も、毎月 1 回のペースで夜間想定を交えて避難訓練を行った。

- 1 4 月 17 日 AM10 : 30～11 : 00 日勤体制での避難誘導訓練

特養、ショート、デイ、職員 86 名参加

特養、厨房より火災発生

※ 反省・感想

避難誘導スムーズに落ち着いて行えた。誘導時、指示する職員がいたので避難誘導しやすかった。点呼時、職員の点呼も実施することとした。職員の安否を確認することは難しく試行錯誤中である。

2 5月19日 AM10:30～10:55 日勤体制での地震発生による避難誘導訓練

特養、ショート、デイ、職員 72 名参加

地震により南側廊下が崩れる想定。(迂回路を設ける)

※ 反省・感想

崩壊箇所を隔てた西側の避難誘導人員が少なかった。食堂入口で非難を妨げる物があった。避難時における進行方向を決めておいた方がよい。

3 6月6日～9日 ビデオの上映「気象災害から命を守る」

特養、ショート、デイ、職員 74 名参加

※反省・感想

時期がちょうどよかった。内容もわかりやすかった。豪雨などの自然災害が増えているので勉強になった。自分だけは大丈夫と思わず、警戒し命を守る行動をしたい。

4 7月21日 PM19:00～ 夜間召集の火災による避難訓練

特養、ショート、職員 85 名参加

食堂冷蔵庫付近より出火

※ 反省感想

職員同志の声掛けが出来ていてスムーズでした。機敏で素早い対応が出来ていた。伝言していく難しさは毎回感じます。

5 8月23日 AM10:30～11:00 日勤体制での避難誘導訓練・放水訓練

特養、ショート、デイ、職員 87 名参加

デイやしお台所より火災発生・放水訓練

※ 反省感想

放水訓練やる機会がなかなかないので参加でき勉強となった。声が届かない時でも、手信号で伝えることができるのでしっかりと実施したい。

6 9月13日 AM10:30～ 夜間想定での火災による避難訓練

特養、ショート、デイ、職員 70 名参加

特養リネン庫より火災発生

※ 反省感想

介護職員の声掛けで動くことが出来たので、声掛けをしっかりと聞くことが大事だと思った。介護職員が移乗するのを待っている職員もいたので、移乗介助を待たずしてどうしたら誘導できるか確認も必要だと思った。

7 10月20日 AM10:30～10:45 日勤体制での火災による避難誘導訓練

特養、ショート、デイ、職員 102名参加

特養洗濯場の乾燥機より火災発生

※ 反省感想

「火事だ」の声を、北廊下に向かっても言ってほしかった。利用者さん、全員混乱する事もなく非難する事が出来た。

- 8 11月6日 AM10:30~11:00 日勤体制での地震による火災発生の避難誘導訓練

特養、ショート、デイ、職員 67名参加

地震後特養事務所より火災発生・屋内消火栓使用し放水訓練実施

※ 反省感想

社会福祉施設の防災安全対策の一層の確立を図る為、11月1日を「社会福祉施設防災の日」とし、県下一斉に訓練を実施することとされている。当施設においても実施要領に沿い計画をし、訓練を実施した。

- 9 12月15日 AM10:30~10:50 日勤体制での火災による避難訓練・応急救護訓練

特養、ショート、デイ、職員 60名参加

看護室より火災発生・看護師による応急救護

※ 反省感想

第一発見者が周囲伝達の方へ捉われたのか、初期消火が遅れた。

応急救護

三角巾がない場合のごみ袋代用が勉強になった。

- 10 1月12日 AM10:30~ 日勤体制での避難誘導訓練・通報訓練

特養、ショート、デイ、職員 99名参加

デイすみれの台所より火災発生

※ 反省感想

声を掛け合いスムーズに避難誘導できました。

- 11 2月15日 AM10:30~10:50 夜間想定での避難訓練（火災）

特養、ショート、デイ、職員 78名参加

食堂おしぼり保温庫より火災発生

※ 反省感想

夜間想定訓練のため誘導職員が少なく、時間を要した。実際となると、もっと少ない人数だと思うので訓練をしっかりと行いたい。

- 12 3月29日 PM7:00~7:40 連絡網を利用した夜間連絡訓練

全職員 47名参加

※ 反省感想

いつどこでどんな災害が起こるかは、予測できない為、常に防災意識を持って行動する事は大切だと思う。

<職員研修>

* 施設内研修

研修については、感染症防止のため、職員全体集まつの会は1回だけとし、研修報告を回すことで理解していただいた。

* 施設外研修

4月から	浜松市老人部会（Zoom）	年間6回	小澤朋
4月から	浜松市介護支援専門員連絡協議会関係年間9回		松並・京子
9月から	相談員研修・ケアマネジメント研修他年間6回		高村
9月から	BCP研修会年間3回		大道正
6月	北遠地域介護保険サービス事業所連絡協議会 総会及び研修会		小澤朋・結・松井・小島 秋元・木下
7月	安全運転管理者講習会・総会		岡本
8月	介護支援専門員生活相談員研修（Zoom）		京子
9月	フットケア講座		大道和
	予算管理講座		大道正
10月	外国人介護人材活用研修会		大道正
	事務職員研修会		小澤結
	浜松市介護サービス事業者説明会（集団指導）動画		松並・森下ま・小島 栗田・山本・木下
11月	介護看護研修会		藤盛
	老人部会看護職員研修会		伊藤
	全国老人福祉施設大会		高村・松並
12月	通所介護職員研修会		大道和
	北遠協議会施設長・管理者研修会		小澤朋・大道正
1月	口腔のケア講座（Zoom）		高村・中田
2月	「中山間地域の医療・介護を考える会」		京子
3月	認知症基礎研修（Zoom）		運転手・介護職員

慰問・ボランティア一覧

	慰 問	ボランティア
4月		
5月		つくし会様（習字）
6月		
7月		つくし会様（習字）
8月		
9月	喜多八郎・春野すずめ様 松井茉未様 島育子様	つくし会様（習字）
10月		つくし会様（習字）
11月	てらう	つくし会様（習字）
12月		つくし会様（習字） 岩本弘様・栗田吉章様（門松作製） 嶋口晃様
1月		つくし会様（習字）
2月		つくし会様（習字）
3月		つくし会様（習字）

<研 修>

・ 社会福祉実習

趣旨

高校生が、福祉施設での実習を通し、福祉に関する知識や技術を学ぶとともに高齢者や施設の方々とコミュニケーションをとる中で、相互の交流を深め、福祉マインドを身に付ける。

・ 高校生

期間	学校名	内容	人数
令和 5 年 5 月～ 12 月	静岡県立 天竜高校春野校舎	体験実習	4 名

・ 中学校「職場体験活動」

目的

キャリア教育の一環としての職業学習の中で、実際に「働く」という活動を経験し、生徒の職業観をより深める。

10/5 春野中学 2 年生 1 人

令和5年度 特別養護老人ホーム秋葉の苑事業報告

【目的】

入所者の生活経験や価値観を理解し、偏見や先入観を持たずに、困難や不自由を少しでも軽減して、安心感を与えるような援助ができるように努めた。

(1) 生活

〈施設内の環境〉

季節感を取り入れた苑内の環境作りを行い、個人の環境については、本人の嗜好を考慮しながら、家族から提供された写真や飾りなどを配置した。

〈施設外への外出〉

昨年5月に、新型コロナウイルスの類型が2類⇒5類へ変更になったが、その後も、新型コロナウイルスやインフルエンザの感染拡大の時期が続いていたため、外出の基準そのものの緩和は行っていない。

(※基本的には外出は、通院、理美容、金融・行政手続きなどの目的に限っている)

ただし、ケアマネジメントの個別ケアの観点から、個々のケースに対して、会議でひとつひとつ検討しながら外出の可否を判断することを始めている。

〈つぶやき～今日の予定・その他～〉

“つぶやき”にて、その日の予定(メニューや行事など)をあらかじめ知ってもらったり、担当職員により話題提供が行われるようにした。

〈喫茶〉

毎週火曜日の喫茶で、好きな飲み物と甘いものを選んで味わうことを楽しみにしている利用者は多い。ご利用者の1週間の生活リズムを作る上でも大きな役割を果たしている。

〈クラブ活動〉

現在、行われているクラブ活動は習字クラブのみであるが、ご利用者一人ひとりの個性を表現する大事な機会となっている。全作品を苑内に貼り出し、一部を春野町文化展に出展している。

〈誕生会〉

誕生会の最初に、誕生者のプロフィールの紹介をご本人とのQ&A方式で行っているが、誕生者が歩んでこられた人生の道なりに、改めて思いを馳せる貴重な機会となっている。プレゼントの贈呈の後、最後は懐かしい歌を誕生者とみんなと一緒に歌う。誕生者だけでなく、みんなにとって楽しみな特別な一日となっている。

〈行事〉

昨年5月に、新型コロナの類型が2類⇒5類へ変更になったが、高齢者入所施設における感染症拡大時のリスクに変わりはなく、令和5年度も行楽・家族会・納涼盆踊り大会は行っていない。年中行事は地域や家庭での思い出や、1年の中での節目を感じさせてくれるものであり、演芸会などの行事は職員と利用者が一緒になって楽しむ機会となっている。お花見では、桜の景色に感動・感謝されているご利用者の姿を見ることができる。ご利用者とともに堤防の桜並木の下を歩みながら、また翌年も皆さんが健康で、この景色を一緒に楽しめるようにとの思いを新たにしている。

令和5年度 利用者状況

定員 50名 現員39名 令和6年 3月 31日現在

<利用者内訳>

1、人数・年齢等

人数	最高年齢	最小年齢	平均年齢
39	101	69	89.4

2、年齢階層別表

	男性	女性	計
60～64歳	0	0	0
65～69歳	1	0	1
70～74歳	2	0	2
75～79歳	1	0	1
80～84歳	2	3	5
85～89歳	0	9	9
90～94歳	1	9	10
95～99歳	0	10	10
100～	0	1	1
合計	7	32	39

3、在苑期間別人数

	男性	女性	合計
1年未満	3	9	12
1～3年未満	3	6	9
3～5年未満	1	6	7
5～10年未満	0	9	9
10年以上	0	2	2
合計	7	32	39

平均在苑期間（年）

男性 0.86

女性 3.13

全体 2.72

4、要介護度

要介護度	男性	女性	合計
要介護 1	0	3	3
要介護 2	0	2	2
要介護 3	5	12	17
要介護 4	1	12	13
要介護 5	1	3	4
計	7	32	39

〈外出／入院〉 ※単位 [人]

		令和5年									令和6年		
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
外出	受診 ※()内… 件数	4(5)	2	3	3(4)	5	2	4(8)	3(4)	2	7(9)	6	3(4)
	理美容			1		1			1				
	金融/行政 機関		3	1			1						
	自宅												
入院				1	2	2	2		1	1		3	3

〈外泊〉 ※単位 [人]

		令和5年									令和6年		
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人数													
日数													

※令和5年度は、外泊はなし。

〈障害者手帳〉 ※単位 [人]

身体障害者手帳	1級	2
	2級	
	3級	1
	4級	1
	5級	
	6級	
療育手帳	A判定	
	B判定	1

〈医療保険等加入状況〉 ※単位 [人]

国保	1
生活保護	0
後期高齢者	38
合計	39

負担限度額段階・要介護度別 利用料

負担段階	第 1 段階		第 2 段階		第 3 段階①		第 3 段階②		第 4 段階		合計
要介護 1		0人	¥45,950	1人	¥54,010	1人	¥76,020	1人		0人	3人
要介護 2		0人	¥48,193	2人		0人		0人		0人	2人
要介護 3		0人	¥50,534	4人	¥58,594	2人	¥80,604	1人	¥98,274	10人	17人
要介護 4		0人	¥52,776	4人	¥60,836	1人	¥82,846	3人	¥100,516	5人	13人
要介護 5		0人	¥54,985	1人	¥63,045	1人		0人	¥102,725	2人	4人
合計		0人		12人		5人		5人		17人	39人

※この中に「利用者負担額」「食費」「居住費」「貴重品管理費」を含む。

<社会福祉法人による利用者負担軽減制度>

※低所得の人が申請によってサービス費用の 1 割・食費・居住費それぞれ25%が軽減される制度。

・対象者 3 名 軽減額 590,680円 (市補助金 121,475円、苑負担 469,205円)

<預り金>

- ・通帳・印鑑の管理：印鑑を苑長、通帳を相談員がそれぞれ別に保管、管理する。
 - ・定期的に（3ヶ月に一度）、保証人へ通帳のコピーを送付して確認していただく。
- そのうえで、預り金確認書に署名・捺印し、返送していただく。

（２）施設ケアマネジャー

〈目標に対して〉

ご利用者が健康に毎日を過ごしていけるように、会議・ミーティングや、随時のやりとりの中で、ご利用者の状態変化や課題を、タイムリーに多職種間で情報共有しながらサポートを行った。その人らしさを大切にしていけるように、入所時に生活歴や趣味の聞き取りを丁寧に行い、必要に応じて面会後にご利用者・ご家族とも相談しながら、ご利用者の人生史や趣味活動を伝えたり、発表できる場を作り出すように工夫した（てんぐだより・玄関ホールへの展示・春野文化展など）。

〈ケアマネジメントの実施に関して〉

朝夕のミーティングの報告や、介護記録、ご家族来苑時のご利用者・ご家族との話し合い、担当者からの聞き取り・照会など、多様な方法で状況の把握を行った。担当者会議は介護保険更新時にこたわらず必要時に開催している。病状の変化などが生じたときには、当日の夕方や、回診の後などに、ケアに関する話し合いや医師との相談の機会を持つようにしている。ケアプランの目標やサービス内容を、現在、7種類に分けて記載している。「移動」・「食事」・「入浴と排泄」・「病状管理」・「夜間のケア」・「意思疎通」・「本人の趣味や楽しみ」の7つである。コロナ発生の頃から「苑内外での活動」が減少しているので、それを少しでも増やしていけるように、これまでの方法にとらわれずに検討し、少しずつご利用者それぞれのケアプランの中に盛り込んでいきたい。また、苑全体の「口腔衛生の管理」への取り組みが令和6年度から変更されることに伴い、ご利用者個々のケアプランの中の「口腔衛生」の内容についても、充実・改善していく必要があると考えている。

〈入所から終末期までの期間全体を視野に入れた生きがいと看取りの支援について〉

令和4年度の途中からより、「アドバンス・ケア・プランニング」の考え方に基づいて、入所から終末期までを大きく「安定期」「変化期」「終末期」の三つの時期に分けて捉えるようにした。家族への意向確認は、入所の際・受診や入院の必要が生じた時・終末期に近づいた時にはしっかり行っているが、安定している時期や変化が見え始めた時期などにも、医療の目的に限らず、ご利用者のご希望の実現の部分も含めて行えるようにしていきたい。

〈ご利用者の要介護度区分の変更の検討について〉

介護保険において、ご利用者の状態・レベルを反映する最も重要な指標は「要介護度」である。要介護1・2の特例入所者を除くと、特養での入所時点で「要介護3以上」の要件を満たせば入所は可能であるが、その後、秋葉の苑で継続してケアを行っていく上で、「ご利用者の現状（状態像）」と「その時点での要介護度」が釣り合っていることが望ましいと考える。そのため、令和5年度は「必要時に」区分変更を検討することとした。（結果としては1件の検討にとどまった）これからは、「ケアプランの短期目標期限の時期（1年おき）」に、全利用者の「1年間の状態の変化」を多職種で確認し、要介護度で2段階程度の変化があると考えられる時には、区分変更申請の検討を行う予定である。

(3) 生活相談員

〈目標に対して〉

利用者の「全体性」と「自分らしさ」を理解・尊重しようと努めながら、利用者同士や家族との交流、苑内での時間の過ごし方が少しでも豊かになるように援助した。また、多職種・他機関・家族との連携がスムーズになるように工夫した。

〈目標に対しての具体的な取り組みの進捗状況〉

○新規入所の促進のために、待機状況を居宅介護支援事業所などに定期的に連絡するだけでなく、入所手続きや特例入所者（要介護1,2）の受け入れが迅速かつスムーズになるように、入所申込時の聞き取り内容を変更し、必要時には入所申し込みから1週間以内に判定会議を実施するようにした（「特例入所」や「優先入所」の要件・書式との共通性を図った）。

○「入所申込待機者の定期的な状況把握」は未実施／「入所契約時の書類の様式の見直し」は検討中／「入苑者台帳の記入方法の工夫」は実施済。「様式の変更」は検討中／「緊急連絡先の様式変更」については検討中／「ケースファイルのファイリング方法」については改善済。情報の閲覧はスムーズになっている／「認定調査情報」は昨年度全員分を取得済。その後の後の入所者や更新時については適宜実施していく。

○「施設向け通販の利用」や、「ファッションセンターしまむらの出張販売の検討」を進めた（令和6年5月17日に出張販売予定）／「衣服に関する家族への連絡業務」を介護の担当職員に移管することを検討（令和6年4月1日～移管）。

○「面会ルール」の一部変更（「家族の範囲」「面会時間」「人数」の拡大）の検討を行った（令和6年4月15日～一部変更）。「外出」については、一律の緩和ではなく、ご利用者の個別ケアの観点から、外出の希望があった時に、その都度検討する形を開始している。

○主任会議の後の時間に、多職種による情報共有・話し合いの時間を取るようにしている。夕方のミーティングの後には、夕方の申し送りの中で気になることや、翌日の予定などで事前に準備が必要な内容などについて確認し合うようにしている。回診後のミニカンファレンスでは、医師を含めたケースの検討や、時には薬剤師や家族参加による話し合いも行う。

○「介護現場におけるICT化の促進」に関しては、職員が新型コロナウイルス感染症を罹患した際に、ビデオ会議サービス（Google Meet）を利用して会議を行った。「家族の面会」や「ロングショートステイの利用者のモニタリングの便宜」などへの活用については検討中。

※ICT：情報通信技術を活用したZOOM、SNS、タブレット端末の活用など。

〈入所〉 令和5年度の入所者は18名

〈退所者〉 令和5年度の退所者は23名

（苑内での死去15名・入院先での死去6名・他の介護施設へ2名）

令和5年度 日用品支給表

	支給品内容
誕生日	誕生日のプレゼント（1人 2000円程度にて品物又希望メニュー対応）
9月敬老式典	花（喜寿、米寿、白寿、90歳以上の方へのプレゼント）
クリスマスプレゼント	全体で希望する品物をプレゼント
その他	歯ブラシ・歯磨き・箱ティッシュ（1箱/月）
	レクリエーション、娯楽共有金あり

令和5年度 年間行事

〈令和5年〉

4月 2日	お花見会（お花見弁当）
7月 7日	七夕会
9月上旬～	敬老週間（ボランティアの慰問など）
9月17日	敬老会
9月22日	演芸会
12月16日	忘年会
12月23日	餅つき会
12月31日	年越しそば

〈令和6年〉

1月 9日	新年祝賀式
2月 3日	節分の会
2月 2日～4日	春野文化展（習字クラブの作品を展示）

※感染症拡大のリスクを考慮し、家族会・行楽・納涼盆踊り大会は実施しなかった。

(4) 介護

《目標の成果》

- ① (安心感を与えるような言動と話しやすい環境作りを心掛け、穏やかに生活できるようにする。)
業務に追われ精神的余裕がなく、個々のペースに合わせた対応をすることができなかった。
- ② (利用者の状態の変化を見逃さず、事故が起こらないようにする。)
特に夜勤帯で利用者に想定外の動きがみられ、入院を伴うような怪我があった。
- ③ (エアーマット・補助食等多角的な対応を迅速に行い、褥瘡を作らないようにする。)
多角的な対応を迅速に行い、褥瘡予防に努めることができた。
- ④ (利用者のご家族に寄り添い、その人らしく終末期を迎えられるようにする。)
制限がある中でも、なるべくご家族との時間が持てるよう配慮した。
- ⑤ (感染症の予防に努め、発生した場合には速やかに対応できる体制作りをする。)
臨機応変に感染症予防に努め、発生を防ぐことができた。

以前に比べ利用者が多様化してきており、より個々に合った対応が求められていることを強く感じた。しかし、限られた職員数でそれを実現させることは難しく、今後の課題である。

〈苦情相談〉

なし

〈身体拘束廃止委員会〉

拘束を行う際には、記録を残し、家族への説明と了承を得ている。月一回の委員会だけでなく、随時で行うことで早めの対応ができ、減らすこともできた。

〈事故防止委員会〉

事故の状況の報告をし、原因や解決策等について話し合った。又、報告書にて、職員全体が把握するようにした。しかし、出された解決策では不十分で、防げない事故もあった。

日常生活動作(ADL) 令和6年3月31日現在

〈入浴〉	男	女	計	〈食事〉	男	女	計
自立浴	0	1	1	自立	5	23	28
介助浴	2	11	13	半介助	1	6	7
中間浴	3	16	19	全介助	0	2	2
特浴	2	4	6	経管・胃瘻	1	1	2
合計	7	32	39	合計	7	32	39
〈移動〉	男	女	計	〈排泄〉	男	女	計
自力歩行	1	4	5	自立	2	6	8
見守り介助	1	0	1	トイレ誘導	2	10	12
歩行器	0	2	2	ポータブルトイレ	0	7	7
車椅子(自立)	1	6	7	オムツ	2	9	11
車椅子(半介助)	0	8	8	バルーン	1	0	1
車椅子(全介助)	4	12	16	合計	7	32	39
合計	7	32	39				
〈着脱〉	男	女	計				
自立	1	4	5				
半介助	6	25	31				
全介助	0	3	3				
合計	7	32	39				

(5) 看護

健康診断実施状況

利用者

- ・春季健康診断（令和5年4月実施）
- ・血液検査
- ・胸部レントゲン（令和5年5月実施）
- ・秋季健康診断（令和5年10月実施）
- ・インフルエンザ予防注射（令和5年10月実施）

利用者全員に施行

- ・週に1回 バイタルチェック
- ・毎月末（第4週）体重測定
- ・コロナワクチン接種6回施行（1回目3年6月2回目3年7月3回目4年2月

職員 4回目4年8月5回目4年12月6回目5年8月）

- ・春季健康診断（令和5年4月実施）
- ・血液検査 検尿 血圧
- ・胸部レントゲン（令和5年5月実施）
- ・腰痛検査（令和5年6月実施）
- ・秋季健康診断（令和5年10月実施）

血液検査 検尿 血圧

- ・腰痛検査（令和5年12月実施）
- ・インフルエンザ予防注射（令和5年10月実施）
- ・コロナワクチン接種6回施行（1回目3年6月2回目3年7月3回目4年2月

4回目4年8月5回目4年12月6回目5年8月）

嘱託医師診察状況（嘱託医師 小澤靖）

定期回診 毎週水曜日午後

随時往診 緊急時 その他必要に応じて

毎日の処置

内服薬投薬

経管栄養注入

バルーンカテーテル挿入

傷処置

外用薬塗布

血糖値チェック

点眼薬投薬

随時行うもの（医師の指示によるもの）

点滴注射 筋肉注射 導尿 喀痰検査 カテーテルの交換 排便を促す座薬
解熱剤の座薬挿入など

<健康管理>

- ・毎日、利用者の顔色や表情、歩き方などの状態観察をすると共に、声掛けを多くするように心掛けた。他部署との情報の共有もできた。体調を崩した人や異常者を早期発見し、少しでも早く苦痛緩和ができるように、Dr との連絡、報告、診察、処遇などができた。
- ・結核感染予防の為に、胸部レントゲン検査は全員行った。

<記録>

- ・経過観察の記録は、検温表に記録し、他部署の職員が見ても解りやすいようにした。

<口腔体操>

- ・毎週水曜日、食事前に無理なく身体を動かしたり、歌を唄ったりして、声を出すようにし、口腔体操を行った。食事が、美味しく、楽しく、むせ込みも少なく摂れた。

<経管食>

- ・経管栄養者は、注入中及び注入後訪室し、特に逆流、嘔気、嘔吐等異常の有無の観察をしたが、特に問題はなかった。

<排泄>

- ・便秘傾向の利用者には、他部署との連携をとり、下剤薬や坐薬を使用したり、腹部マッサージや水分摂取を心掛ける等排便コントロールを努めたが、排便コントロールのむずかしさを痛感する事があった。

<感染症>

- ・令和 5 年度は、職員数名が 2 月に新型コロナ陽性となったが、自宅待機をとると同時に感染症対策委員会を開催し、協議する事により、利用者には感染する事はなかった。
- ・その他のインフルエンザ、ノロウイルス、疥癬等の発生はなかった。
- ・感染症対策委員会では、度々新型コロナウイルスをテーマにして行い、感染しないように努めていた。
- ・令和 5 年 5 月から、入館の際には、チェックリスト用紙に記入し、ルールを守って頂き、又、11 月から短期入所の利用者には、必要に応じて抗体検査を行っている。
- ・全職員は、毎朝、勤務開始前に検温測定し記録している。

(6) 給食

常に利用者一人一人の大切な食事であるという意識を持ち、家庭にいた時と同じような気持ちで食事を楽しんで頂けるように、嗜好調査を実施し献立に反映した。食事に対する満足度を向上させるために、旬の食材を取り入れたり、家庭的な味を目指す事ができた。また、安心・安全な食事が提供できるように努めた。

<実施状況>

① 給食会議

月に1回、施設長を始め、各部署の代表、委託業者が参加をし、食事に関する意見を出し合いながら、利用者にとってより良い食事の提供が出来るように努めた。また、各部署との情報交換を行なった。

② バイキング、お好み食堂、誕生会のお祝い献立

お好み食堂は週2回、バイキングメニューは月に1回お皿に盛り付けて提供した。にぎやかな料理がお皿に盛られ、いつもと違う雰囲気を楽しんで頂いた。誕生日には、御祝い献立として、甘い物(おまんじゅう、チョコレートケーキ等)、とんかつ、ちらし寿司等、本人希望の食事の提供をした。

③ 行事や地域の産物を生かした料理の実施状況

- 4月 筍ごはん、桜蒸しパン、お花見弁当
- 5月 松花堂弁当、山菜おこわ、グリンピースごはん、卵茶巾と海苔巻き寿司
- 6月 梅・しそジュース、新生姜ごはん、新じゃがの煮物、梅干し漬け
- 7月 うなぎのひつまぶし、三色そうめん、焼き茄子
- 8月 夏野菜の天ぷら、梅ゼリー、アイスクリーム
- 9月 敬老会メニュー、きのこごはん、おはぎ、水ようかん、栗
- 10月 おやつバイキング(和洋菓子)、栗入り赤飯、ちらし寿司(祭典)
- 11月 さつま芋ごはん、とろろ汁、握り寿司、茶碗蒸し
- 12月 忘年会バイキングメニュー、ケーキバイキング、あんころ餅、ふろふき大根
- 1月 おせち料理、お雑煮、七草粥、ちらし寿司(新年祝賀式)、和菓子バイキング
- 2月 おにぎり、刺身盛り合わせ、うなぎ、甘納豆
- 3月 ちらし寿司、ネギトロ丼、ぼた餅、ひな祭りゼリー、いちごのパバロア

毎月1日は赤飯の実施。行事の時は、ビール等も提供した。

④ 栄養ケアマネジメント

担当者会議で利用者の現在の状態を話し合い、利用者に合った栄養ケア計画書をたてるように努力した。また、喫食率低下などにより体重減少があった場合は補助食などの検討をし、現状維持に努めた。

⑤ 食事形態

食事を美味しく楽しんで頂けるように、利用者の希望を聞き、普段は粥の利用者でも、味ご飯の時はそのまま提供するなど、個々の希望に沿った食事の提供をした。利用者の状態によって(嚥下機能の低下が見られる時など)水分や汁物にトロミをつけて提供している。ソフト食でも食べづらい、食べが悪い方にはミキサー食を提供し、喫食率の改善に努めた。利用者の残存機能を維持するために、自力摂取をなるべく勧め、自分のペースで喫食して頂いた。

⑥ 安心安全な食事の提供

禁止食(好き嫌い、アレルギー)や減塩、カロリー制限への対応をしている。そのため、安全に喫食して頂けるように、名札に記したり、禁食のある人は名札を立てて区別したり等、配膳ミスを防ぐ工夫をし、確認業務を行なった。衛生面に関しては、遅番従業員が床や食器棚等の清掃をし、厨房内の清掃が徹底された。反省点としてはデイサービスに提供したお膳に、使い捨て手袋の先端部分が混入してしまった。調理員と共に反省し、盛り付け時には細心の注意を払い、再発防止に努めていく。

⑦ 配食弁当

現在、平均配食数 昼 5 食・夕 10 食程配食をしている。

1 人暮らしの方の昼、夕の配食弁当は、安否確認も兼ね、温かなお弁当を各家庭にお届けした。減塩食やアレルギーがある方(禁止食)、粥、刻み食への対応も行った。配食用の名札を作ることで再確認をし、ミスがないように努めた。

⑧ その他

地域の皆様や家族の方から、旬の食材を頂き、調理に活用した。

栄養士の手作りおやつの実施(お好み焼き、梅ゼリー、焼餅、フルーツあんみつ、あじさいゼリー、おしろこ等)、香りや味を楽しみ、利用者の食への関心を高めた。

令和 5 年度

ショートステイ秋葉の苑事業報告

《目標の成果》

- ①（安心感を与えるような言動を心掛け、笑顔で接する。）

業務に追われ精神的余裕がなく、個々のペースに合わせた対応をすることができなかった。

- ②（職員間で情報の共有をし、統一した介助をしていく。）

職員間で事前に情報の共有をしたが、利用時に状態が変わっている場合もあり、対応が統一しきれなかった。

- ③（事故のないようしっかりと観察をする。）

動きのある利用者に対する予測が不十分で、同じ利用者が怪我を繰り返してしまった。

- ④（利用者・家族双方の気持ちを尊重した対応をしていく。）

利用者・家族双方の気持ちの尊重に努めたが、量りきれない部分があった。

<介護度別利用者延べ日数> 単位：日

月 介護度	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
要支援 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
介護 1	6	18	26	6	8	11	8	7	10	10	12	20	142
介護 2	24	16	3	5	15	13	16	11	5	0	2	4	114
介護 3	79	66	50	74	75	49	66	63	57	44	47	30	700
介護 4	35	16	11	0	0	0	0	0	0	9	7	0	78
介護 5	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	4
計	144	116	90	85	102	73	90	81	72	63	68	54	1,038

令和5年度 デイサービスセンター<すみれ>事業報告

感染症予防（手洗い・手指消毒・マスク着用等）行っていたが、職員3名罹患者が続けて出てしまった。その為、デイサービス利用の受け入れを一週間中止（閉業）となってしまう、利用者及び御家族に大変ご迷惑をお掛けしてしまった。

今後、このようなことがないように、感染予防に努めていきたいと思っている。

稼働率に関しては、施設入所やショート利用者が増える等、低迷してしまった。

《活動（集団でのレクリエーションや機能訓練活動）》

活動は、小グループ制を主として行い、利用者が、最大限に活動が発揮できるよう支援した。機能訓練では、主に下肢筋力が強化できるような運動を提供した。集団でのレクリエーションでは、他者とも楽しむことができるよう支援した。

《通所介護計画の作成》

利用者及び家族に、判り易い通所介護計画書の作成に努めた。
通所介護計画書の作成にあたっては、担当介護支援専門員と連携し作成した。

《生活相談》

利用者及び家族からの相談に応じると共に、適切なサービスや支援が行えるよう、各機関と連携を図った。

《入浴》

利用者一人ひとりの健康状態を把握しつつ、身体状況に合わせた介助を行った。
入浴中は、十分な見守りのもと、安全安楽に入浴して頂けるように努めた。
入浴終了後には、感染予防の為、脱衣籠・手すり・マット等、消毒を行った。

《送迎》

安全第一を念頭においた走行及び、安全確保に細心の注意をはらった。
降車した後は、車中（ドアノブ・手摺り・シートベルト等）の消毒を行った。

《食事》

利用者の状態に合わせた粥・刻み食を提供した。
また、栄養面・食事制限等に配慮しながら、ゆっくりと食事が摂取出来るよう気配りした。
食事中は、利用者と職員が、和やかな雰囲気の中（音楽を流す等して）、食事を摂る事が出来た。
また、誤嚥しない様注意した。

《口腔ケア》

食事前の健口体操（声出し）、食事後の歯磨きを全員の方に勧めた。

《健康管理》

日常的に健康管理が行える様、連絡ノートを活用や電話連絡をして情報交換した。

また利用者の健康状態の把握に努め、血圧測定、体温測定、体重測定（年4回）の実施や、体調に変化がみられた時には速やかに、家族へ連絡、担当の介護支援専門員に連絡した。

《日常生活上の援助》

- ① 排泄介助では、個々のペースに合わせ、健康状態の把握を行うと共に、利用者の尊厳に十分注意しながら行った。
- ② 移動の際には、歩行の見守り、歩行器の提供、車椅子の介助等、安全・安楽に出来るよう気配りした。

《地域との交流》

春野校舎3年生＜福祉類型＞4名と春野中学生2年生1名が体験実習に入った。

敬老お祝いとして、ボランティアさんが歌・楽器（三線・エレクトーン）演奏に入ってくれた。

《運営推進会議》

年二回（4月・10月）行われた。

利用者及び家族、民生委員、包括支援センター職員、行政職員、デイサービスについて知見を有する方々に参加して頂いた。

《苦情相談》

苦情は、なかった。

《身体拘束委員会・事故防止委員会・感染症委員会・衛生委員会》

*感染症について

各委員会に参加し、積極的に取り組んでいたが、職員3名がコロナ感染した。

保健所の指示及び苑長の指示に従い自宅療養した。

*事故について

洗面所前にて男性1名が尻もちを着く事故、歩行訓練時、廊下を歩行中に女性1名が転倒してしまう事故が起きてしまった。＜2件の事故＞

御家族に謝罪すると共に苑長に報告。その後、再発防止対策を職員全員で話し合い、実施した。

<一日の流れ>

- 8 : 3 0 ~ お迎え
 9 : 4 5 ~ お茶・バイタルチェック・入浴・(水分補給)・塗り絵・パズル・読書
 1 0 : 4 0 ~ 体操・健口体操
 1 1 : 2 0 ~ 昼食の配膳・昼食・片付け
 1 2 : 0 0 ~ 昼休み
 1 3 : 3 0 ~ 水分補給
 1 3 : 4 5 ~ 歩行訓練・ラジオ体操・グループごとの活動(ゲーム・手芸・レクリエーション
 クラフト作成等)
 1 4 : 4 5 ~ おやつ・お茶
 1 5 : 1 0 ~ 全員で尻取りゲーム
 1 5 : 3 5 ~ トイレ誘導
 1 5 : 4 5 ~ 送り

<介護度別利用延べ人数>

<単位:名 定員 15名>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援 1	16	3	5	3	0	0	0	0	0	0	0	0	27
要支援 2	15	19	9	11	12	12	14	12	13	12	8	12	149
介護 1	67	92	103	98	128	117	120	119	109	106	79	120	1258
介護 2	128	133	130	139	127	94	103	94	86	85	52	77	1248
介護 3	19	31	22	37	38	22	32	30	29	26	25	26	337
介護 4	0	0	0	0	0	0	4	28	31	19	1	0	83
介護 5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	245	278	269	288	305	245	273	283	268	248	165	235	3102

<介護度別実人数> 単位:名

令和6年3月31日現在

	男	女	計
要支援 1	0	0	0
要支援 2	0	2	2
介護 1	4	9	13
介護 2	1	6	7
介護 3	2	1	3
介護 4	0	0	0
介護 5	0	0	0
計	7	18	25

*平均年齢 男性:91.71歳 女性:91.41歳

令和5年度 活動報告

月	主な活動行事	行事	ボランティア
4月	苑外散歩（藤の花を見物） おやつ作り＜たこ焼き＞（14日） 防災訓練（17日）		
5月	苑外散歩 梅ジュース作り 防災訓練（19日）	菖蒲湯(5日) 節句（端午） 母の日	
6月	おやつ作り＜蒸しパン＞（19日） 防災訓練（防災ビデオ観賞）	父の日	*春野校舎3年生2名実習に入る （20日・27日）
7月	七夕飾り（3日～7日） おやつ作り＜五平餅＞（19日） 防災訓練＜夜間招集＞（21日）	七夕	
8月	盆踊り おやつ作り＜焼きそば＞（22日） 防災訓練（23日）		
9月	敬老お祝い（18～22日） 五平餅（18日） 蒸しパン（19日・22日） おはぎ（20日） お好み焼き（21日） 防災訓練（13日）	彼岸	*春野校舎3年生2名実習（5日・19日） 敬老お祝い：慰問＞ ・松井茉未さん・川端しげ子さん ・岩本弘さん・橋爪伸江さん ・大杉玲子さん・多賀雪子さん
10月	小運動会（3日・6日） おやつ作り＜餃子＞（18日） 防災訓練（20日）		春野校舎3年生3名実習（3日）
11月	おやつ作り＜五平餅＞（24日） 干支作り（龍） 防災訓練（6日）	山の講(7日)	
12月	お楽しみ会＜忘年会＞ （20日・22日・25日・26日） 防災訓練（15日）	ゆず湯 （22日）	
1月	おやつ作り（お汁粉）（11日） 防災訓練（12日） 鏡開き＜お汁粉作り＞（11日）	新年祝賀式 鏡開き(11日)	
2月	節分＜豆まき＞（2日） おやつ作り（どら焼き）（26日） 防災訓練＜夜間想定＞（15日）	節分（2日） 文化展出品 （2日） 山の講(7日)	
3月	お茶会＜甘酒＞（1日） おやつ作り＜ぼた餅＞（19日） 防災訓練＜電話連絡のみ＞（29日）	桃の節句 お彼岸	
・誕生会（色紙・歌・お祝いメッセージを贈りました。） ・年4回(4月,7月,10月,1月)の体重測定を行いました。 ・避難訓練（月1回）に参加しました。 ・グループ活動を行いました。（折り紙・クラフト作成・卓上ゲーム・レクリエーション等） ・月1回、お便りを発行しました。			

令和 5 年度 デイサービスセンター秋葉の苑やしお事業報告

<総括>

7 月より入所、死亡が続き、新規の利用者が増えても、短期利用で終わる方ばかりであった。しかし、事故もなく、感染症の拡大もなく年度を終えることが出来た。

<重点目標に対する成果>

①1 日の平均利用人数を 8.0 人以上とし、稼働率 80.0%以上を目指す

「達成できていない」

②個々のレベルに応じ、更に高度な認知症研修等への研修参加や事業所内研修を活発化させ認知症ケアの向上に取り組む

「周辺症状に対する事業所内研修は盛んに行い、認知症ケアの向上に取り組んできた」

<苦情>

令和 5 年度の苦情はゼロであった

<会議・研修>

認知症関連研修修了者	認知症対応型サービス事業者管理者研修	1 名
	認知症介護実践者研修	2 名
	認知症介護実践リーダー研修	1 名 終了

外部研修 「認知症介護基礎研修」 無資格者 4 名(令和 6 年 3 月までの受講義務)
「人間学に基づく認知症介護」 三好春樹氏 R6 年 2 月 WEB にて
山本受講

月 1 回のデイサービス会議、適宜ケアカンファレンスは行ってきた

運営推進会議は通常開催で 2 回行っている

地域ケア会議 出席なし

<身体拘束>

令和 5 年度の身体拘束はゼロであった

<事故>

令和 5 年度はゼロであった

<感染症>

スタッフ 1 名、利用者 1 名のコロナ陽性者が出ているが、事業の縮小や休業はせず、感染拡大なく終息。他の感染症罹患は無し

<地域との交流>

畑を地域の方から無償借り入れ

誕生日祝いとしてボランティアからキーホルダーのプレゼント

<介護度別利用者延べ人数・実人数増減>

介護度別利用者延べ人数・実人数増減

定員 10名

月 介護度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要支援1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1	0	0	7	9	12	10	12	14	11	8	8	8	99
2	46	47	17	17	16	17	26	25	27	26	24	26	314
3	86	103	109	98	88	81	83	77	167	64	62	55	973
4	28	31	28	0	0	0	0	0		0	0	0	87
5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	160	181	161	124	116	108	121	116	105	98	94	89	1473
新規					1	2	1						4
終了				3		3	1	1		2			10
実人数	14	14	14	11	12	11	11	10	10	8	8	8	

<介護度別実人数>

令和6年3月31日現在

介護度1	1人(男0女1)
介護度2	3人(男3女0)
介護度3	4人(男2女2)
介護度4	0人
介護度5	0人

8名:男性5名、女性3名
平均年齢:男性89.6歳、女性80.1歳

令和 5 年度 活動報告

令和 5 年度

月	行事	内容	調理	活動	園芸
4	花見	堤防の桜を愛で楽しんでいる	山菜を使って	回想 茶摘み	カスミ草 プレゼント
5	端午の節句 菖蒲湯 母の日 八十八夜	中庭に鯉のぼりを上げている 菖蒲湯で健康を願っている お母さんの事を回想 茶摘みの回想	柏餅 紫蘇ジュース 梅ジュース	ゲーム 母の日双六	畑にひまわり を咲かせよう 花の植え付け
6	父の日 鮎の解禁	お父さんの事を回想 鮎釣りから川の話をしている	ジャガイモの みたらし団子	クラフト 粘土で花瓶	
7	七夕飾り	願い事を書き笹に飾っている	梅ジュース ゼリー	ゲーム 魚釣り	
8	盆 終戦記念日	盆踊りを踊っている 原爆投下日に当時を偲んでいる	桃缶 ゼリー	回想 川遊び	開花
9	敬老表彰 十五夜 秋の彼岸	長寿を祝っている すすきや収穫物を飾っている 皆で先祖を偲んでいる	甘酒 アイス	クラフト 割り箸壁掛け	
10	収穫祭 秋の祭典	作物の収穫を祝っている（調理） 祭典の DVD を観ている	蒸し さつま芋	回想 運動会	はつか大根種 まき 花の植え付け
11	紅葉 恵比寿講	山々の紅葉を楽しんでいる 回想	柿を剥いて	ゲーム 木の実当て	収穫
12	忘年会 冬至 秋葉火祭り ケーキ会	松花堂弁当にしている ゆず湯で健康を願っている 皆で回想 ケーキ会を行っている	（忘年会に） 黄身酢和え 畑はつか大根	クラフト 盆栽正花	
1	正月行事 新年祝賀式	コマ回しなど行う ビール、ジュースで乾杯する	お汁粉	回想 正月の遊び	
2	節分 山の講	豆まきをし厄払いをしている 山仕事の回想	きんかん 甘露煮	ゲーム 鬼退治	
3	桃の節句 春の彼岸	お雛様を飾っている 先祖を偲んでいる	おはぎ	クラフト 春の壁掛け	

- ・皆さまの誕生会を行っている
- ・年 4 回(4 月,7 月,10 月,1 月)体重測定を行っている（増減の気になる方は都度）
- ・調理なども旬の食材の話題を提供し、皆で計画・実行していく過程を大切にしたい
- ・季節の花を飾り、陶磁器で食事を提供して五感を大切にしている
- ・整容・身だしなみ等、できなくなった部分をケアし人としての基本的な部分を大切にしている
- ・個々が望む活動を提供している

令和 5 年度

元気はつらつ教室事業報告

7月までは月・火・金と開催していたが月曜日の教室は利用者1名介護保険移行の為、0となってしまう、8月より火・金だけの教室となった。利用者が多くなり、月曜日も開催できるようにしていきたい。

利用者が今の生活を維持していける様、活動や体操等楽しく一日を過ごして頂けるように努めた。

<活動>

① コロナが5類移行となり久しぶりに外食をして皆楽しんで頂けた。

- ・ 輪投げやリクリエーションを定期的に行い体力維持に努めた。
- ・ ロコモ体操・ラジオ体操を行い、身体機能維持向上を図る様努めた。
- ・ 嚥下体操を行い嚥下機能向上につとめた。

* 習字教室 生け花教室 新聞のカラー部分を利用したちぎり絵を作り文化展に出展し楽しみながら活動ができた。

<健康管理>

身体に変化が見られた場合には、バイタルチェックを行ない、休息を勧めると共に看護師・医師へと繋げ、家族への連絡を取った。

<送迎>

利用者が不安なく、車に乗降出来るよう配慮した。

また、安全第一を考え、玄関先から、玄関先へと送迎した。

<食事>

日中、一人で食事を摂っている方が多い為か、大勢の方と食事が出来るのも楽しみの一つになっているようだった。

食事の支度、配膳、片付け等利用者が意欲的に行ってくれた。

<個別サービス計画>

計画書に沿った活動や支援に努め、個々に合ったサービスが出来るように努めた。

(計画書は年度始め、個々の評価は年度末に区役所に提出した。)

* 無欠席・2名(女性)

利用者内訳

< 利用延人数・実人数 >

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合 計
実人数	16	15	15	15	15	14	14	12	13	14	15	15	
延人数	62	59	56	56	52	53	50	47	50	53	58	55	651人
開催回数	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	144回

< 地区別利用登録人数 >

< 3月末・現在状況 >

	地 区 名	男	女	計
月 曜 日		0	0	0
火 曜 日	赤岡・原・和泉平・金川	0	7	7
金 曜 日	若身・胡桃平・和泉平・平野・犬居	0	8	8
合 計		0	15	15

平均年齢・91歳 最高年齢・96歳 最低年齢・80歳

介護保険移行者・2名 新規利用者・3名 死亡・2名

令和5年度 行事・活動報告

4月	花見(天竜方面) 習字教室(天野文恵さん)
5月	おやつ作り((柏餅) 折り紙 生け花教室(鈴木京子さん)
6月	バスハイク(福田漁港) 習字教室(天野文恵さん)
7月	七夕飾り 折り紙 生け花教室(鈴木京子さん)
8月	新聞ちぎり絵 塗り絵 習字教室(天野文恵さん)
9月	おやつ作り(おはぎ) 生け花教室(鈴木京子さん)
10月	習字教室(天野文恵さん) 工作(牛乳パック箱作り)
11月	紅葉見物(浜北森林公園 秋葉神社) 生け花教室(鈴木京子さん)
12月	手芸(干支の新聞ちぎり絵)・生け花教室(鈴木京子さん) 習字教室(天野文恵さん)
1月	バスハイク(小国神社へ初詣) レクリエーション
2月	工作(お雛様)習字教室(天野文恵さん)
3月	おやつ作り(ぼた餅) 生け花教室(鈴木京子さん)
毎月	誕生会・体重測定・カレンダー塗り

令和 5 年度 居宅介護支援事業所事業報告

高齢者が、住み慣れた環境で自立した生活の継続を支援するために、適切な介護サービスを総合的・効率的に提供できるよう取り組んだ。

(1) 事業所運営の安定と拡大

目標の充足率 85%以上（2 名体制：60 件以上／70 件）を満たせず（82.3%）、担当延べ件数は、要介護 81 件減少、要支援 18 件増加した（前年度比）。

要介護利用者の減少の要因として、春野町の人口全体の減少と、ケアマネの増加が考えられる。

居宅件数推移

提供月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
予防給付	6	6	5	5	5	5	6	6	5	6	7	7	69
介護給付	59	60	57	63	63	57	57	51	56	54	58	56	691

(2) 業務チェック機能の強化

ケアプランや各種記録等について、ケアマネ同士の相互チェックを行い、適正なケアマネジメントのプロセスや法令の遵守に留意した。

(3) 事業所間の情報共有

事業所や地域包括支援センター、民生委員、医療機関を含む関係者（ケアプランに位置付けた支援者等）とは、密に連携し、受診や入院、サービスの変更等、早期の対応を可能にした。

(4) 在宅生活継続への支援

中山間地域で、フォーマルな社会資源が少なく、近隣に商店や公共交通機関の整備が十分でないなど、環境的な理由から在宅生活の継続が困難な利用者に対して、インフォーマルな支援を考慮したケアマネジメントを行った。

(5) 介護支援専門員としての資質・専門性の向上

令和 5 年度は、オンラインでの研修に加え、集合型の研修や事例検討会等の開催が始まり、積極的に参加した。また、管理者は、主任介護支援専門員として、各種研修・事例検討会等の司会やファシリテーターとして貢献し、事業所及び地域のケアマネジャーの資質・専門性の向上に努めた。

【秘密の保持】

守秘義務遵守の観点から、個人情報文書類については、鍵のかかる書棚や引き出しにて保管し事務所も営業時間外は施錠し管理した。パソコンやUSBなどでの管理は情報漏えいや紛失などの恐れがあることを自覚し、法人外部への持ち出しを禁止した。

保険者等への個人情報の含まれる文書等の提出においては、紛失などをすることがないよう配慮した。

【苦情処理】

令和5年5月11日、利用者家族から、事業所職員の電話対応に対する苦情が1件あった。

原因は、①担当ケアマネのコミュニケーション不足、②在宅復帰前の入所施設による拙速な退所決定と情報提供不足によるものと分析した。

管理者が利用者及び家族に謝罪し、担当を変更することで解決に至った。

苦情を受けたケアマネには、①ケアマネジメントプロセスの指導、②接遇に関する研修への参加を指示し、接遇改善に取り組んだ。

【事故発生（車両事故含む）の防止】

業務上の事故はなかった。

令和 5 年度 稼働率

5 年度	デイすみれ	デイやしお	はつらつ教室	ショートステイ	特養
4 月	80.0	80.0	95.5	48.8	92
5 月	78.4	79.2	92.5	37.4	92
6 月	81.0	72.0	93.3	31.0	90
7 月	92.0	58.5	93.3	30.5	94
8 月	88.2	51.2	83.2	31.8	90
9 月	77.3	51.5	88.0	27.5	94
10 月	83.8	56.0	86.5	28.5	92
11 月	85.2	52.4	84.0	27.6	88
12 月	84.5	49.5	84.0	24.0	88
1 月	78.8	45.8	89.0	21.4	86
2 月	51.3	44.0	87.8	23.8	85
3 月	74.3	43.0	91.5	16.8	80
平均	79.6	56.9	89.1	29.1	89.3